

「～ながラー」の活動のながれ

「～ながラー」になったら、アートと多様なひと・事柄を結び、地域をうるおすことを目指します。

「自分ごと」として問題を捉え、自主的なグループ(舟)での活動を実行できるようにします。

家や学校、職場とは違う、第三の場である美術館。さまざまな関心、背景をもつ多様な人々と出会い、活動がスタートします!



1

基礎ゼミ

(4～7月、全7回)

※日程および開講回数に変更する場合があります

アートコミュニケーターについての基礎的な考え方や、対話のあるコミュニティづくり、美術館の在り方について考え学びます。

たとえば、こんな活動!

ミュージアムの特性を活かした活動とは?

アートコミュニケーターの社会的役割について学ぶ



ミュージアムの特性を活かした活動とは?

きく力

「～ながラー」のコミュニケーションの基本となる「きく」ことについて学ぶ



きく力

会議が変われば社会が変わる

「～ながラー」の活動に欠かせない、ミーティングの理想的なスタイルや具体的な手法を学ぶ



会議が変われば社会が変わる



自分の発言が肯定的に受け止めてもらえた



2

実践ゼミ

(9月～不定期)

多様な来館者に寄り添うためにアートコミュニケーターの在り方について考えるゼミです。美術館の活動で大切なことや、アートと人、社会との関わり方をテーマにして学びを深めます。

たとえば、こんな活動!

作品鑑賞と「～ながラー」

鑑賞手法やファシリテーターの技術を学び、鑑賞を軸に多様な来館者に寄り添うために自分たちができることを考えました。



作品鑑賞と「～ながラー」

アクセスと「～ながラー」

多様な背景をもつ来館者に寄り添い、美術館を楽しんでもらうためにどのような意識をもって存在すればよいか考えました。



地域資源と「～ながラー」

岐阜県を中心に展開されるアートプロジェクトや人々のつながりを通して、「地域資源」について実践を交えながら考えました。



地域資源と「～ながラー」



3

この舟のろう方式

たとえば、こんな「舟」

おしゃべり鑑賞丸

来館者の年齢に合わせた「おしゃべり鑑賞会」の開催



おしゃべり鑑賞丸

こぐまのしろく丸

館内で絵本の読み聞かせ+館内ミニツアーを開催



こぐまのしろく丸

ホモ・サピエンスの鳴き声丸

作品を鑑賞し、感じた事を「なきごえ」(擬音語、擬声語や身振り等)で表現する体験を実施



ホモ・サピエンスの鳴き声丸

各チームには、舟をイメージして「～丸」などの愛称をつけます



アーティストや、美術館にまつわる人、岐阜にゆかりのある人々と出会い、創造とコミュニケーションの場をつくります。作品や人を通して社会とつながりながら、活動を広げていきます。

イベントで関わった参加者の笑顔が嬉しい



明後日朝顔丸

日比野克彦アートプロジェクト「明後日朝顔」への取り組み方や発信の仕方を試し、他の参加地域と交流しながら、思いを巡らせる



明後日朝顔丸

こよみのよぶね丸

地域のアートプロジェクトに参加し、アートコミュニケーターならではの関わり方を模索する



こよみのよぶね丸

3年目マイボート

任期満了を迎える年度に実施する「～ながラー」独自の自主プロジェクト

得意分野でできることをもちより、形にしていながら活動しているよ



4

美術館から、それぞれの活動へ出港!

こんな活動をしている人がいます

- 文化リンクワーカー
- 地域アートイベントへの出展
- ワークショップ開催 など

3年後の3月には「～ながラー」の任期を修了し、出港。次のステップへ!もと居た場所や社会という広い海で、学んだこととともに、それぞれの創造力を発揮した活動をしていきます。

